

愛知老人コミュニティーセンター ニュース



まきば通信

第36号



「まきば」に、そして「まきば」が、 近い存在となることを願って

愛知老人コミュニティーセンター

運営委員 村山 盛芳

(南山教会牧師)

「まきば」に近い教会で、そうあり続けたいと願っている、南山教会牧師の村山盛芳です。地理的に「まきば」に最も近い教会に7年前に赴任してから、毎月第1金曜日の午前に、礼拝説教と聖餐式の奉仕に伺うようになりました。「まきば」と教会の間にある愛知牧場の中を、ゆっくり歩いて7分の距離です。牛たちの姿を眺めながら、説教の内容を反芻するのが常です。その後、理事・運営委員としても関わるようになりました。それまで、「まきば」の存在さえ知らなかつた者が、定期的に親しく交わりをさせていただけるようになったことは、大きな驚きと感謝です。この場所を終のすみかとしておられる皆さま、スタッフの方々には、顔を覚えていただいて（いるはず?）、愛知国際病院で、散歩の途中の牧場で、礼拝で、顔を合わせる度にご挨拶できることは、私にとって大きな喜びです。人ととの距離も近い関係にあることを思います。

新型コロナウィルスの影響で、「まきば」の礼拝に伺うことができない時期がありました。南山教会では、「まきば」から日曜日の主日礼拝に出席してくださる方々のために、10人乗りの自動車で送迎をしておりましたが、感染防止のためにそれも出来なくなりました。そこで、主日礼拝のYouTube配信をすることとし、「まきば」の礼拝室にお集まりいただいて、一緒に礼拝をささげようになりました。どなたでもお越しください、

《目次》	頁
〈巻頭言〉	1
〈畠牧師の思い出〉	2
〈戸田牧師の思い出〉	3
〈特集「まきば」のコロナ対策〉	4~5
〈「まきば」トピックス〉	6~7
〈編集後記〉	8

畠 祐喜 牧師の思い出

「畠祐喜先生を偲んで」



畠祐喜先生が、神戸での伝道牧会生活を引退され、しばらく居られた同市岡本のマンションから、シルバーホーム「まきば」に富士子夫人と共に入居して来られた時、岐阜市の教会の筆者は、それを喜んだことを覚えています。近くに来られて、お訪ねするのが容易になったからです。その思いほどに実際は果たせなかつたのですが、それでもお訪ねした折には、いつも時を惜しむほどにお話しが進んだものでした。横におられた夫人が、お身体に障ることを心配されて、ストップをお掛けになるまで、お話しは続きました。様々なことを伺い教えられ、その度に新鮮な刺激を受けたのを懐かしく思います。話題はいつも、現今の神学的動向をめぐるものでした。

2002年に神戸布引教会牧師として仕えておられた先生は、突然心臓疾患を発症され、神戸大学医学部病院に緊急入院、難しい手術を受けて危うくいのちを保たれたのでした。以後、そのお身体を抱えながら、それでも20年近い引退生活を保たれたのは夫人の温かい介護と、優れた施設環境や医師に恵まれたことと、感謝するものです。1931年東京、目黒に生まれ、教団信濃町教会で受洗されています。日曜学校で蓮見和男先生(現日本キリスト教会教師)の生徒であったと聞きます。その影響もあってか、都立九段高校から東京外國語大学ドイツ語科卒業後、直ちに東京神学大学に進んでおられます。既に少年時代から伝道者として献身する意志を固められての予定の歩みだったのか、と思われます。ご生前に確認する機会を失しましたが、……。

日本キリスト教会引退教師 多田 淩

2019年12月1日早晩、88年の生涯を閉じ、同月3日、日本キリスト教会名東教会で葬儀が執り行われました。教団石動教会、新日キ加入、夙川教会、佐賀めぐみ教会、神戸布引教会で、伝道牧会に当たられました。傍ら、北陸女学院高校、武庫川女子大、佐賀医大、神戸松蔭大などで外国語講師を勤めておられます。前半の神戸と佐賀時代に、ドイツ留学をなさつて神学の研鑽を重ねておられます。早くから、教会の社会奉仕としてのディアコニア活動に神学的興味を持たれて、佐賀時代はその教会と関わりの深い福祉施設の理事として実践的奉仕をされました。「歴史と現代におけるディアコニー」と言う著書を初め、多くの著訳書を世に問うておられます。先生の神学的学びには、いつもK.バルトの神学が確固とした基盤がありました。現代の新しい問題に取り組むにも、バルトをいつもその根底にする、という思考があったように思います。

お二人のお嬢さんに恵まれ、ご長女啓子氏はドイツで家庭を営む傍ら、教会オルガニスト兼音楽監督、次女の晴子氏は日本キリスト教会東京中会教師をされています。父君の二つの生き方の継承でしょう。富士子夫人の日々が慰めと平安に包まれてありますよう祈りつつ。



戸田 伊助 隠退牧師の思い出

「戸田伊助先生を偲んで」

名古屋教会牧師 田口 博之

2020年8月27日、敬愛する戸田伊助先生が主の御もとへと召されました。

隠退教師の住まいのためにご自身が発案し、設立へと至ったシルバーホーム「まきば」で、95年の地上での生涯を閉じられました。

戸田先生は1925年、会津のお生まれです。1951年日本基督教神学専門学校を卒業、熊本坪井教会（現、錦ヶ丘教会）伝道師、蕃山町教会牧師を経て、1963年5月に名古屋教会第8代牧師として着任。2002年3月に隠退されるまで39年にわたって名古屋教会を伝道牧会されました。今の名古屋教会を支えている方の多くが戸田先生の薰陶を受けた方たちです。

戸田先生が着任された頃の名古屋教会は苦悩の時代でした。前任牧師の辞任は教会に傷を残しました。60年安保の時代、社会的問題意識の高い青年たちが多くいました。戸田先生は福音を深く掘り下げることで、信仰の一致と教会の主体性を確立しようとしました。そのために繰り返し語られたのが、名古屋教会の創立者である植村正久の三つの「志（こころざし）」です。戸田先生はこれを今日的状況の中で「1、生けるキリスト信仰」、「2、開かれた教会」、「3、小さき者と共に」と再解釈されました。植村の三精神は今も名古屋教会の活動方針として継続されています。

戸田先生は、万博問題、教師検定問題等で混迷する日本基督教団の責任を担うことになりました。1973年11月の教団総会で教団総会議長として選出されたことで、中部教区議長の職を2期目の任期途中で辞されます。いわゆる「対話路線」により3期6年にわたり教団の舵取りをされました。いったいどれほどのストレスを抱えていたことかと思います。

私は戸田先生との接点は多くありませんが、先生の説教や著書を読むと、書斎からではなく、困窮の中に生きる人々の魂を深く見つめるなかで紡ぎ出された

言葉だと感じることができます。しかも、その言葉が実践へと結びつきました。「魂のケア」を表すドイツ語に「ゼールゾルゲ」があります。教会の中では「牧会」と訳されることの多い言葉ですが、戸田先生は「牧魂」と訳すべきと主張されました。牧師として「うめいでいる魂」を見つめられ、寄り添われた、まさに牧魂者でした。先生の言葉と行いに「ぬくもり」を感じた教会員は大勢おられます。知的障がい者のための「さぶらん」も、戸田先生が牧師でなければ生まれることはなかったでしょう。

最後に、戸田先生が作られた一つの詩を紹介します。

「マラナ・タ（主よ、来てください）」
闇をさまようあの人のところに
主よ 行ってください マラナ・タ
疲れとうめきはあの人をつつみ
沈黙に飲みこまれています
いま そばにいてくれる人は誰もいません
主よ そばに行ってあげてください
そうすれば 光があの人にさし込み
魂は生きかえるでしょう
マラナ・タ



特別企画

silver home

まきばの 「新型コロナウイルス感染症」対策

2020年を迎えた頃から、突如私たちを襲った目に見えないウイルスの脅威に、どう対処していいのか、またどの情報を信じて取り組めばいいのか翻弄される毎日でした。しかし、2月25日に政府の「基本方針」による情報提供がなされました。

そして、「まきば」は介護保険事業所として監督省などの指示もあり、入居者様には不要不急の外出を控えていただくことや、外出時にはマスクの着用や人混みを避けていただき、帰館時には手洗い又は消毒・うがいなどの徹底をお願いしました。

また、ウイルスを持ち込む可能性が高い職員の体調管理や介護施設職員としての自覚の徹底、さらに「まきば」で感染症強化期間に行っている弱酸性次亜塩素酸水溶液 (WahW ワーウォ) の噴霧やオゾン発生装置による空間除菌を強化するなど、「拾わない・持ち込まない」という取り組みを行いました。

一時はマスクの不足や入手困難が続きましたが、ご家族様や関係機関からの寄贈により、入居者様へお配りすることもできました。

アルコール消毒液に関しては、WahWの希釈を変えて代用するなどの対応をしております（アルコール消毒液に関しては6月になって、国からの優先供給として少しづつ購入することができるようになりました）。

その後は愛知県内の感染者数の推移を見ながら、3月より面会や行事、外出サービスを制限させていただく事としました。そのため、入居者様には南山教会の礼拝への参加の自粛をお願いし、オンラインの礼拝にて参加していただきました。

「まきば」で大切にしてきた行事である「聖書の集い」も、愛知西地区の教会を中心に、近隣教会の牧師をお招きして行う形式を止め、毎週宗教主事が担当し、さらに接触機会を8割減らすために、二部制にして行うなどの工夫をしながらも続けていました。

しかし、緊急事態宣言により全ての行事を休会、職員の勤務体制も「もしもの時」に備えて、二部制とする判断をしました。このため「まきば」から介護保険利用者様への「アクティビティ」以外の行事が無くなりました。

5月下旬には愛知県内や近隣自治体の新規感染者数、感染経路不明者が落ち着いて来たことを受け、慎重に緩和を行ってまいりましたが、秋以降は「Go to キャンペーン」の影響もあり、再び新規感染者数が増え、緊急事態宣言が発出されたことを受け、「まきば」は再び最も厳しい制限の体制となっています（1月末現在）。

社会は「With CORONA」という新しい生活様式へとシフトしようとしていますが、「まきば」が全面解除になるには、まだまだ時間を要すると思います。これからも入居者様やご家族様の安心・安全を守るために、愛知国際病院の井手理事長の助言を受けつつ対策を講じ続けてまいります。引き続き、お祈りに加えてくださいね。



WahW

以下は、この期間に行われた行事をご紹介します。

オンライン中継による南山教会の礼拝



3月22日のオンライン礼拝の様子



「密」を避けてペンテコステ礼拝（5月31日）の様子

「アクティビティ」でマスク作り



「召天者記念礼拝」&「ボランティア感謝会」について

例年「まきば」では4月29日前後に「召天者記念礼拝」、7月下旬に「ボランティア感謝会」をおこなっていましたが、新型コロナウイルス感染症予防により、今年度は中止いたしました。

また、様々なボランティアの方々を受け入れた行事につきましては、今後の感染症の動向と「まきば」の感染症予防対策を十分検討し再開してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

まきばトピックス

このページでは、日本基督教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や近隣での出来事を紹介するコーナーです。

敬老のお祝い膳

9月21日は敬老のお祝い膳でした。

現在「まきば」の入居者様の平均年齢は84.5歳、最高齢は男性の方で98歳です。また、開設当初（24年前）から入居され、お元気に過ごされている方もお見えになります。「まきば」は入居時自立から要支援までの方にご入居いただいたこともあります、15年以上の方が7名、10年以上15年未満の方が5名、5年以上10年未満の方が17名など、終の棲家として入居されてから、比較的長い時間を過ごしていただいております。



エレベーター工事を行いました。

10月9日（金）～23日（金）までの工期でエレベーターの大規模工事を行いました。本館が建てられてから24年が経過したために、主要部品を取り替え、またこの先25年間安全にエレベーターを使用するためのものです。

5階建ての「まきば」にとって、24時間完全にエレベーターが停止する期間が1週間あったため、1年前から準備し、入居者様の生活が出来る限り不自由にならないよう職員一人一人が取り組みました。



工事中のエレベーター



オルガン奉献式を行いました。

10月5日（月）に岡野オルガン（電子オルガン BR-3S）が搬入され、11月13日（金）にオルガン奉獻式を行いました。昨年匿名で、オルガン指定の寄付をいただき、1年半待っての設置となりました。「コロナ禍」にあって、暗いニュースばかりでしたが、礼拝室に素敵な音色を奏でる楽器が与えられたことを心から感謝すると共に、これからも主を声高らかに賛美する礼拝を守り続けていくことができるよう願っております。



クリスマス礼拝を行いました。

12月22日(火)に「まきば」では一足早くクリスマス礼拝を守りました。例年ですと、外部の牧師をお呼びしての礼拝となりますが、今年は宗教主事による礼拝でした。

今年のクリスマスは、これまで「あたりまえ」としていた人と人との繋がりの大切さを感じさせられる時となりました。



お食事は特別メニューで行いました。

馬小屋の飾り

永年勤続者表彰を行いました。

11月のスタッフミーティング時に、「まきば」を20年間支え続けてくださっている職員へ永年勤続者表彰を行い感謝の意を表しました。

1997年1月に事業を開始した「まきば」にとって、その大部分の介護を担ってもらっています。

また、事務職員で10年目を迎えた職員もあり、これまで「まきば」を長期にわたって支えてくださっている職員が多数与えられていることに感謝しています。

これからも他の職員へ良き感化を与え、次に続く職員が与えられることを願っています。



■愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

献金者芳名(2019年4月1日～2020年3月31日)		
教会福祉献金	匿名 1名様	1,000,000 円
オルガン指定献金	匿名 1名様	3,320,000 円
	小 計	4,320,000 円
センター 維持献金	緑幼稚園様、水野紀子様、渡辺郁雄様、小崎真様、中部学院大学宗教委員会様、中村教会様、深谷佐和子様、今井義雄様、熱田教会様、愛知西地区内互助委員会様、愛知東地区教師会様、十字ヶ丘復活苑様、刈谷教会婦人会様、平井章様、真木芳子様、岡崎教会泉の会様、名古屋学院様、丹羽三夫様、中京教会様、仲田水尾子様、加藤久雄様、岡崎教会様、森義旗様、知立伝道所様、広路教会様、福井久子様 他(匿名)6名様・「礼拝」での献金10口・「聖書の集い」での献金9口	金額 1,038,578 円
	合 計	金額 5,358,578 円

皆様のお支えに感謝します。

献金
振込先

①三菱 UFJ銀行 日進支店
(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
運営委員長 下村 徹嗣
普通口座 1162658

②郵便振込
日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
振替番号 00870-4-29934

スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、人格を大切に守る介護を実践してみませんか？
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当：施設長)

入居予約受付中



シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす…
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

交 通 機 関 名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m

類型及び表示事項 施設の類型／介護付有料老人ホーム 居室の権利形態／利用権方式
介護保険／愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件／60才以上で入居時自立及び要支援の方(要介護の方も、ご相談に応じます)
居室区分／個室及び二人部屋 介護にかかる職員体制／2:1以上

●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

編集後記

やっとの思いで「まきば通信36号」の発行に辿り着きました。
主の年2021年も新型コロナウイルスに振り回されたスタートとなりました。「まきば」内は感染予防対策に追われ、入居者様には面会・外出制限など、大変不自由な生活となっています。また、ご予約してくださっている方々には、体験入居までのご案内が長期間になっています。1日も早い終息と、感染された方々や、医療現場で働かれている方々のためにただ祈るばかりです。

今回の「まきば通信」は、そんな中にあって「まきば」の感染症対策と、前号からの間に召された隠退牧師の先生方を偲び編集しました。

日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
まきば通信 第36号 発行日 2021年3月10日
発行人 鈴木 卓也

看護職員(夜間)

週1日程度から。
曜日に限定がある方は相談に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00～翌8:00

(休憩4時間あり)

【手当】精勤手当あり

介護職員(パート)

常勤臨時職員

(休憩1時間あり)

【資格】介護福祉士

【勤務】4週8休(変形労働時間制)

(正社員への登用制度あり)

新卒の方大歓迎!!



見学や体験入居もできます(要予約)

キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。

主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究祈祷会」などにも自由に出席することができます。(現状については本文参照)



〒470-0111 日進市米野木町南山987-88
TEL.0561-74-5548 FAX.0561-74-5561
ホームページ <http://silverhome-makiba.jp>
E-mail info@silverhome-makiba.jp